



Summer in the Philippines Donna Lampa

While Hokkaido has a lot of summer fun from June until August, Metro Manila – the region where I'm from in the Philippines – gets hit by very strong typhoons during this period! Isn't it interesting how the same months herald very different seasons for two places even though they are both in Asia and are just hours apart?

Summer in the Philippines falls in the months of April and May, but in many ways, the experience is not really that different. The sun is also up for half the day, beating down our backs and giving our skin a healthy tan. We also hate how exhausting the heat can be, but we use this as an excuse to have a lot of ice cream and cold drinks. I have many happy memories of eating halo-halo, which is similar to Japan's kakigori except that we use evaporated milk instead of syrup plus add nata de coco, tropical fruits, and yam-flavored ice cream. You should try it; it's like trying to cool down by eating a rainbow!

Festivals are another thing that we both share. We call them fiestas back home, and we celebrate a saint's feast day or the annual harvest. We also close off the main roads and enjoy festival food, but instead of the omikoshi, we parade statues of deities and saints. There is one notable difference in the way we enjoy summer, though. Many sand beaches in the Philippines are good for swimming and surfing, so summer is the perfect season for weekend trips to the beach! You can listen to the crashing waves while cooling down with fresh coconut juice or a mango shake. I guess that's one advantage to living in a tropical island paradise.

【ちょっと豆知識】宮地晶子

日本とフィリピンの大きな共通点といえば、なんといっても島の多さ。日本は6800あまり、フィリピンは7500以上あります。国の正式名称は「the Republic of the Philippines」。スペインの皇太子、フェリペ2世から取った名前に、諸島を表す複数の「s」がついています。

フィリピンの夏 ドナ・ランパ

北海道では6月から8月までたっぷり夏が楽しめますが、私の出身地メトロ・マニラでは、この時期とても強い台風が襲われます。ともにアジアで数時間しか離れていないのに、この時期全然違う季節を迎えるのは面白いことですね。

フィリピンでは4、5月が夏です。でも多くの点で、やることはそう変わりません。一日の半分は太陽が出て、背中に照りつけ、健康的に日焼けします。確かに暑くて疲れるのは嫌ですが、それを言い訳にたくさんアイスを食べたり冷たい物を飲んだりできます。ハロハロを食べた楽しい思い出もたくさんあります。ハロハロはかき氷に似ていますが、シロップではなくエバミルクをかけ、ナタデココやトロピカルフルーツとヤムイモアイスに乗せたもの。食べてみてください。まる

で虹を食べて涼をとる感じがします。

お祭りも共通の部分。国ではフェスタと呼びます。聖人祝日や1年の収穫を祝うもの。大通りを閉鎖して、お祭りの食べ物を楽しみます。神輿ではなく、神様や聖像のパレードです。

でも、夏の楽しみ方に一つ大きく違うものがあります。フィリピンには、海水浴やサーフィンに向くビーチがたくさんあって、夏は週末のビーチ旅行に申し分ない季節です。フレッシュコナツジュースやマンゴーシェイクで涼みながら、砕ける波の音が聞けます。これが南国の楽園に住む良いところでしょうね。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第153回

夏のボーナス

海外や日本の優れた写真家を表彰する写真の町・東川賞。今年の受賞者はカナダのマリアンさん。パートナーのコーリンさんとともに初来日し、何もかもが珍しかったよう。中でも気になったのがマスク。マスクをする人が多くて、不思議に思ったと言います。

昔なら「風邪をうつさないために」でしょうが、今はちょっと違うかも。「マスク女子」という言葉を教えてあげました。もう一つ気になったのが「なぜ日本の飲食店に

はジャズが流れているのか」というもの。「ちょっと高級感が出るからではないか」と答えました。こんな説明でええんかいな?と思いましたが、その後行った町外の定食屋さんでもジャズが流れていて、本当にちょっと高級な感じがして笑ってしまいました。

「寺社の祀はナチスのことか?」という鉄板質問も。日ごろ当たり前を感じていることも海外から来た人には謎なんですね。これなど「聞かれて困る外国人の"Why?"」「外国人が日本人によく聞く100の質問」(どちらも三修社刊)、「英語で語る日本事情」(ジャパントイムス社刊)などを1冊暗記するのがお勧めです。

今年のお客さまと私の共通の関心事は植物でした。うちの庭に連れて行ったら、大喜びして「It's a real bonus to me.」を連発してくれました。私にとってのボーナスは、どんとこい祭りの案内中にたくさんの卒業生に会えたこと。中でも、今年は高校での英語の授業の様子を聞かせてくれた人が多数いました。みなさん、ほんとに優秀! 私にとってはこれが「リアル・ボーナス」となりました。ありがとうございます! みんなの頑張りを励みに私も頑張るよ。